

特定非営利活動法人 日本免疫学会

Tadamitsu Kishimoto International Travel Award for the 15th ICI

研究発表報告書

| | | | |
|---------------|--|------|---------|
| 申請者氏名 | 飯笹 英一 | 会員番号 | 0033138 |
| 申請者の 所属・職名 | 佐賀大学医学部分子生命科学講座免疫学分野・日本学術振興会特別研究員(PD) | | |
| 出席会議名 | 15 th INTERNATIONAL CONGRESS OF IMMUNOLOGY | | |
| 発表論文 タイトル | Identification of novel innate pattern recognition receptors for <i>Mycobacterium tuberculosis</i> | | |

実施結果:

私は、2013年8月22日から8月27日にミラノで開催された15th INTERNATIONAL CONGRESS OF IMMUNOLOGYに参加した。この学会は、ピアノやバイオリンによるイタリア作曲家の曲の生演奏を間にはさみながら、ノーベル賞受賞者のJules Hoffmann博士をはじめとした講師の先生方の免疫の講演があるという斬新なオープニングセレモニーとともに幕開けした。

私は、"Identification of novel innate pattern recognition receptors for *Mycobacterium tuberculosis*"というタイトルで、ポスター発表を行った。この発表では、ITAM関連受容体(ITAMR)ファミリーに属する2つの受容体が、結核菌(*M. tuberculosis*)由来のpathogen-associated molecular patterns(PAMPs)を認識して、宿主の免疫を活性化することを見出したことを報告した。ポスター発表のセッション時間は2時間弱であったが、私のポスターは、珍しく好評で、ひっきりなしに見学者が来て下さった。特に、ドイツでITAMRを研究している方をはじめ、日本の学会では、普段、会うことのないその分野の専門家の方も発表を見に来て下さり、有意義で、深いディスカッションができた。『この発表は、まだ論文になっていないのか、論文になるのを楽しみにしている。』と言われたことは、励みになった。また、その日の午前中に、ITAMRファミリーの受容体の研究を精力的に行っているGordon Brown博士の講演があったため、その講演からITAMRに興味を持たれたという普段は全く異なる研究をされている方とも、違った視点でディスカッションができ、有意義であった。

自分の研究テーマであるITAMRの研究者は、日本では、そんなに数が多くないが、今回の学会では、ITAMRの研究発表が数多く有り、多くのITAMRの研究者と話すことができ、勉強になった。また自分の研究テーマ以外でも、日本の学会では、あまり見たことのない研究も数多く有り、非常に勉強になった。特に、いくつかのグループが発表していた加齢に伴って、マクロファージの活性が低下する報告などは、興味深かった。

以上のように、今回、Tadamitsu Kishimoto International Travel Award for the 15th ICIを拝受し、この学会に参加する機会を与えて頂いたことは、非常に有意義な経験となった。今回の経験を生かし、今後とも研究に精進していきたい。